

(公財)大学コンソーシアム京都	平成28年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

基本事項

所管局課	総合企画局総合政策室	本市出えん金	50,000 千円
基本財産/資本金	100,000 千円	本市出えん率	50.0 %

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

方向性	存続	目標年度	—
-----	----	------	---

「今後の方向性」に向けた基本の方針

業務面	「京都地域における大学間連携事業の推進」、「加盟校の教育の質向上の追求支援」、「大学都市」京都、地域の発展と活性化への貢献」を掲げて、一層の大学振興に取り組む。
財務面	適切な効果検証に基づく「事業の選択と集中」を一層推進し、財団の組織運営効率化や収支の改善を図っていく。
組織面	本財団がこれまで培ってきた「大学、行政、産業界が協力して、大学教育研究活動を向上させ、これを地域社会と産業界へと還元していく」という設立の理念を一層前進させるため、公益認定基準を遵守した公正な運営に努めつつも、責任ある意思決定の仕組を効率化していく。
その他	特になし

当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>(公財)大学コンソーシアム京都は、「単位互換事業」や「インターンシップ事業」などの大学間連携事業を幅広く展開するとともに、平成27年度よりスタートした「留学生スタディ京都ネットワーク」の運営や「大学のまち京都プロモーション」などの事業を引き続き実施するなど、本市施策「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に大きく寄与している。</p> <p>財務運営では、必要経費の見直しなど、収支改善の試みは認められる。今後も、引き続き、経費削減や事業の選択と集中による効率的な事業運営に努める必要がある。</p>
-----	--

当年度の取組に対する総括

団体(※)	当財団の中期計画「第4ステージプラン」の推進に向け、同プラン3年目の当年度は、具体的な事業展開(留学生支援事業、調査事業の充実強化、従来事業での新たな取組の実施等)を図ることができた。また、経営の安定化を目指し、一層の経費節減にも取り組んだ結果、当期経常増減額の黒字を維持することができた。
所管局(※)	<p>平成28年度決算では、平成27年度に続き、当期正味財産増減額は黒字となっており、収支の改善に向けた取組の成果が認められる。</p> <p>設立以来、「単位互換事業」や「インターンシップ事業」などに取り組み、優れた成果を挙げるとともに、留学生支援事業等の新たな事業展開を図るなど、本市施策「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に大きく寄与してきたところである。</p> <p>一方、大学を取り巻く今後の状況においては、財団への期待はより多様化していくものと予想される。中期計画である第4ステージプラン(対象期間:平成26年度~5年間)にも示されているとおり、「大学間連携事業の推進」「加盟校の教育の質向上の追及支援」「地域の発展と活性化への貢献」を更に進めていくことが求められる。</p>
外郭団体総合調整会議(※)	4期連続して当期正味財産増減額の黒字を続けており、損益面において、事業整理の効果が出ている。事業の効率化を進めつつも、引き続き、行政や大学等と連携した先進的な事業に積極的に取り組んでほしい。

(公財)大学コンソーシアム京都	平成28年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

(1)業務に関する取組

目標1 「京都地域における大学間連携事業の推進」	
中期経営計画 における取組	<p>(公財)大学コンソーシアム京都は、京都地域の大学間連携と相互協力を図り、加盟大学・短期大学の教育・学術研究水準向上とその成果の地域社会、産業界への還元、また、地域社会、行政及び産業界との連携を促進し、地域の発展と活性化に努め、京都地域を中心とした高等教育の発展と社会をリードする人材の育成を目指している。第4ステージプラン（2014年度から2018年度の中期計画）において、「加盟大学・短期大学ならびにステークホルダーのニーズ・期待への対応」、「質の向上を基本とした「事業の選択と集中」の実施」に留意して事業に取り組み、本財団ならではの大学連携により、財団の基幹事業である単位互換事業、インターンシップ事業をはじめとする事業を着実に推進する。</p>
当年度目標	<p>財団の基幹事業である単位互換事業、インターンシップ事業をはじめとする各事業を着実に推進する。平成27年度に引き続き量から質への転換を進め、事業内容の向上を基本とした「事業の選択と集中」を実施する。そのために事業部体制の見直しを図る。</p> <p>また、平成27年度よりスタートした国際関連事業における「留学生スタディ京都ネットワーク」との連携による留学生受け入れ体制の強化をはじめ、自治体などとの連携も進める。</p>
当年度結果 (※)	<p>単位互換事業については、量から質への転換を図る中、平成27年度から開始した「世界遺産PBL科目」の受講者が増加しており、一定の成果が得られている。</p> <p>事業部体制の見直しについては、7事業部体制であったものについて、細分化が進み過ぎたことから6事業部に再編した。</p> <p>また、オール京都で創設した留学生スタディ京都ネットワークの事務局運営を担う等、留学生支援を一層強化するほか、新たに有給インターンシップの実施や留学生向け住宅情報検索サイトを創設し、留学生受け入れ体制の強化を図った。</p>

指標①	京(みやこ)カレッジ出願者延数 (単位：人(延数))							
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度			平成29年度
	—		1,500		1,500			1,500
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	1,500	1,748	1,500	1,946	1,847	—	1,610	—

指標②	インターンシップ(プログレスコース)受講修了者数, 受入団体・企業数 (単位：人,社・団体)							
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度			平成29年度
	—		65		65			65
修了者	—		65		65			65
受入団体・企業	—		9		9			9
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	65	64	65	43	65	—	57	—

(公財)大学コンソーシアム京都	平成28年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

目標2 「キャンパスプラザ京都の利用促進(講義室, 演習室, 会議室等の施設貸出)」	
中期経営計画 における取組	<p>キャンパスプラザ京都の指定管理者として、京都地域の大学・短期大学等が加盟する財団として、市民と大学の交流拠点として求められるサービスを、最適なコストで提供できるように、更なる効果的な運用を行う。</p> <p>京都駅前の交通至便な立地条件を活かし、大学関係者の利用はもとより、大学休暇期間には一般の利用者を確保できるよう広報を行い、年間を通して安定した稼働率の維持と施設使用料を確保する。</p> <p>キャンパスプラザ京都は平成12年の開館から平成26年で15年を迎えた。施設や講義室等の機器も老朽化してきており、改修やリプレイスが必要となってきた。これら改善を適正な時期に行い、利用者の利便性や快適性を図ることで、利用促進をめざす。</p>
当年度目標	<p>キャンパスプラザ京都は、施設条例に定める、大学における学術研究の成果その他の知的資産を活用することにより豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との間の連携及び交流を促進する活動その他の活動の用に供するために設置された。</p> <p>今年度もこの施設運営の理念に基づき、単位互換事業や生涯学習事業（京カレッジ）で積極的に本施設を活用するとともに、指定管理者として、講義・演習・会議室等の適切な施設提供並びに保守管理に努める。</p>
当年度結果 (※)	<p>当年度目標に掲げたとおり、単位互換事業や生涯学習事業をはじめとする事業で積極的な活用を行った。</p> <p>なお、竣工から15年以上が経過し、建物、設備とも更新や大規模な修繕が必要な個所が認められるため、当年度に長期修繕計画を作成し、中長期的な視点に立って優先順位を付けながら、京都市と協議相談の上、修繕を実施していくこととした。</p> <p>また、利用者から多数の改善要望が寄せられていた使用料納付方法について、郵便局からの振込に対応する予約システムの変更を行った。</p>

指標	施設の使用料 (単位：千円)							
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度			平成29年度
	—		99,500		99,750			100,000
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	99,250	92,894	99,500	101,752	99,750	—	99,211	—

(公財)大学コンソーシアム京都	平成28年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	------------------------

(2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績(※)	予算	実績(※)	
経常収益	393,493	394,027	411,767	418,497	425,224	420,835	
経常費用	403,217	360,660	420,654	398,875	432,378	406,847	
当期経常増減額	△ 9,724	33,367	△ 8,887	19,622	△ 7,155	13,988	
当期正味財産増減額	△ 9,677	28,808	△ 8,887	19,622	△ 7,155	13,988	
資産合計	—	436,329	—	458,088	—	468,647	
負債合計	—	41,286	—	43,423	—	39,994	
正味財産	—	395,043	—	414,665	—	428,653	
うち累積損益額	—	295,043	—	314,665	—	328,653	

目標「より効果的な事業展開に努め、長期的に安定した財政運営を図る。」	
中期経営計画 における取組	<p>収入については、財団の経常収益は会費収入と事業収入を基本としている。会費収入については、ほぼ現状維持にあるが、事業収入の減少が目立っている。事業収入の減少は事業の見直し・廃止が主要な要因であるが、継続している各事業における受講者・参加者数が減少傾向にあることもその要因となっている。近年、事業の拡大よりも質の充実に向けた見直しを進めていることもあるが、収入について自然増が望めない現状にある。</p> <p>中長期的には増収を見込むことが困難な状況下では、適切な効果検証に基づく「事業の選択と集中」を一層推進し、財団の組織運営効率化や収支の改善を図っていく。</p>
当年度目標	<p>大幅な収入増を見込めない厳しい財務状況であることに変わりはない。継続して、相対的に効果の低い事業の縮減廃止、必要経費の見直し等を行うことにより、経費の削減に努め、近年改善しつつある財務状況の健全化を目指す。</p> <p>また、資産運用について、平成27年度中に資金運用管理規程や特定費用準備資金及び資産取得資金の取扱規程に基づき確保した資産の一部を、施設整備の拡充や更新、新規事業の財源として活用する。</p>
当年度結果 (※)	<p>新規事業の開始に伴い支出は増加したが、前年度に引き続き経費節減に努め、安定した財務状況を維持することができた。また、留学生支援事業の拡充にあたり、積立金を計画的に活用し、中期的視点に立った資産運用に努めた。</p>

指標	収入合計, 支出合計							(単位:千円)
	項目	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度
中期経営計画	収入合計	—		435,967		380,147		374,820
	支出合計	—		426,539		375,234		374,601
実績	項目	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)	—
	収入合計	404,625	395,445	435,967	440,973	380,147	430,010	
	支出合計	404,625	397,648	426,539	409,685	375,234	397,043	

(3)組織に関する取組

目標「事業展開に合わせた、効率的な人員配置」	
中期経営計画における取組	財団職員としての資質向上を目的とした、財団主催の研修への参加促進を図るとともに、外部研修会への参加助成の検討を行う。 さらに、職員の短期出向制度などを設け、業務量の分散、軽減、効率化を図る。
当年度目標	事業を統廃合するとともに事業部体制を再編する。また、研究専門職員、臨時職員の定員の一部を事務専門職員に振替える等、業務の実態に合わせつつも効率的な経費支出に留意した人員配置を行う。
当年度結果 (※)	高大連携・インターンシップ事業部の高大連携事業とインターンシップ事業をそれぞれ教育開発事業部と教育事業部へ移管し、当事業部を廃止することにより、7事業部体制から6事業部体制に再編した。 また、臨時職員を減員して事務専門職員の増員を図り、業務の実態に合わせつつも効率的な経費支出に留意した人員配置を行った。

指標	常勤職員数（役員は除く）							(単位：人)
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	—		42		42		42	
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	42	38	42	46	45	—	47	